

◎ 総括

プラン2015の3年目である平成25年度は、管路・処理施設の維持管理及び改築、雨水対策の推進など、予定していた事業を着実に実施することにより「安全で安心な市民生活の維持」「環境に与える負荷の低減」に努めました。臨時的要因により下水道使用料収入が増加したこと、企業債の支払利息が減少したこと、経営の効率化を進めたこと等により、25年度末の資金残高は当初見込みと比較して好転する結果となりました。今後も効率的な事業執行に努め、計画的・安定的に下水道事業を継続していきます。

事業計画

1 下水道機能の維持

【1-1 下水道施設の維持管理】

札幌市には約8,200kmの下水道管があり、老朽管路の状況を把握するために5年間で390kmのテレビカメラ調査を実施することとしており、25年度は目標を上回る140kmの調査を実施しました。なお、調査で発見された異常箇所については即時修繕するなど、迅速に対応しました。

管路テレビカメラ調査延長	計画期間（H27目標：390km）			
	H23-24	H25	H26-H27	
	目標	実績	90km	140km
	117km	257km（140）	—	—

定義：計画期間中の管路テレビカメラ調査の累計延長（括弧書きは単年度値）

【1-2 下水道施設の改築・再構築】

緊急性の高い老朽管路や軟弱地盤の管路改築を実施した結果、25年度までの改築延長は115kmとなり、順調に整備を進めています。また、厚別コンポスト工場廃止に伴い、これまでコンポスト化していた汚泥を東部スラッジセンターで集中処理したため、汚泥処理集中化率は計画どおり99.6%となりました。

管路改築延長	計画期間（H27目標：120km）			
	H22	H23-24	H25	H26-27
	90km	103km	115km	—
	—	—	—	—

定義：老朽管路及び軟弱地盤地区における管路のこれまでの改築延長

汚泥処理集中化率	計画期間（H27目標：99.6%）			
	H22	H23-24	H25	H26-27
	88.1%	95.1%	99.6%	目標達成
	—	—	—	—

定義：東西スラッジセンターで集中処理している汚泥量の割合

2 災害に強い下水道の実現

【2-1 雨水対策】

地下鉄麻生駅周辺地区などの雨水拡充管を2km整備した結果、都市浸水対策達成率は目標である87.8%を達成しました。また、大規模施設の雨水流出抑制対策として策定した「札幌市雨水流出抑制に関する指導要綱」に基づいて大規模施設の設置者との協議を進め、協働による雨水流出抑制の取組を進めました。

雨水拡充管整備延長	計画期間（H27目標：193km）			
	H22	H23-24	H25	H26-27
	188km	193km	195km	目標達成
	—	—	—	—

定義：雨水拡充管のこれまでの整備延長

都市浸水対策達成率	計画期間（H27目標：87.8%）			
	H22	H23-24	H25	H26-27
	86.8%	87.5%	87.8%	目標達成
	—	—	—	—

定義：都市浸水対策の対象面積のうち、整備が完了した面積の割合

【2-2 地震対策】

災害時の破損による影響が大きいと判断される汚泥圧送管や汚水送水管等のバックアップシステム構築のために、汚泥圧送管のループ化に向けた整備を進めた結果、バックアップシステム整備率は70%となりました。

圧送管バックアップシステム整備率	計画期間（H27目標：91%）			
	H22	H23-24	H25	H26-27
	59%	65%	70%	—
	—	—	—	—

定義：汚泥圧送管等の整備計画延長のうち、整備が完了した延長の割合

3 清らかな水環境の保全と創出

【3-1 合流式下水道の改善】

下水中のごみが河川へ流れ出るのを防ぐために吐口へのスクリーン等を設置した結果、スクリーン施設設置率は88%となり、プランの目標を上回りました。

スクリーン施設設置率	計画期間（H27目標：69%）			
	H22	H23-24	H25	H26-27
	34%	50%	88%	—
	—	—	—	—

定義：合流式の吐口のうち、きょう雑物対策をした吐口の割合

【3-2 処理の高度化の推進】

適切な運転管理に努めた結果、水再生プラザの放流水質は目標を達成しています。

目標放流水質（BOD）	計画期間（目標78mg/L）				
	H22	H23	H24	H25	H26-27
	4.2mg/L	4.3mg/L	4.5mg/L	4.6mg/L	—
	—	—	—	—	—

定義：水再生プラザの放流水質（10施設の単純平均）

4 低炭素・循環型都市の実現

【4-1 地球温暖化対策】

水再生プラザに高効率送風機や超微細気泡散気装置を導入しましたが、エネルギー使用量については、基準年（21年度）と比較して降水量や高級処理水量が大きくなったことで汚水ポンプ等の電力エネルギー量が増加したため、25年度のエネルギー使用量は基準年比0.9%増（プラン目標：H27で基準年比6%減）となりました。

【4-2 下水道資源の有効利用】

下水汚泥は、セメント原料化などへの100%リサイクルを継続しました。

財政計画

1 経営基盤の強化

【1-1 財務体質の強化】

施設の改築費用や維持管理費の増加が見込まれていた厚別コンポスト工場の運転を24年度末で停止し、25年度からは市内で発生する汚泥（定山溪処理区を除く）の全量の処理を集中化しました。

民間委託の推進の取組として、新たに厚別水再生プラザの運転管理業務を委託化しました。

【1-2 人材の育成】

安定した事業運営を継続していくために、基礎的な研修や経験年数に応じた実習研修等による職員の技術・知識の維持向上、実務発表会等での情報共有による組織力の向上に努めました。また、災害発生を想定した災害対策本部訓練を新たに実施し、災害対応能力の向上を図りました。

2 中期財政見通し

【H25 主要収入支出総括表】

	（単位：億円）		
	プラン	決算	差引
収入			
下水道使用料	203	208	4
一般会計繰入金（収益・資本）	216	209	△7
企業債の発行	97	100	3
支出			
維持管理費	164	159	△5
建設事業費	145	154	9
元利償還金	260	257	△3
累積資金残高（H25末）	37	64	27
企業債未償還残高（H25末）	2,811	2,808	△3

※億単位で端数処理をしているため、差引が一致しない箇所がある

下水道使用料収入が増加したこと、企業債の支払利息が減少したこと、経営の効率化を進めたこと等により、累積資金残高は当初見込みと比較して27億円好転し、64億円となりました。

運営の視点 ～市民参画の推進～

1 「情報共有」による市民理解の促進

水再生プラザ見学会や楽しみながら学ぶことができる下水道科学館フェスタ等を開催した結果、科学館来館者数は45,900人となり目標を達成することができました。また、チ・カ・ホでのパネル展、下水道・水環境写真の募集等、市民理解促進に向けた新たな取組も始めました。

下水道科学館来館者数（人）	計画期間（目標：45,000人/年）			
	H22	H23	H24	H25
	43,254	48,890	42,280	45,900
	—	—	—	—

定義：下水道科学館の年間来館者数



下水道科学館フェスタ



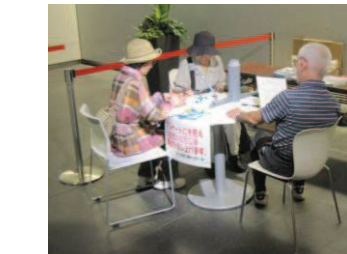
下水道事業パネル展

2 「市民参加」による施策内容の充実

下水道事業パネル展でのアンケート調査や出前講座など、市民の方のご意見を伺う取組を進めた結果、「市民の皆さまの声を聞く取組」回数は11回となり、目標を達成しました。

市民の皆さまの声を聞く取組	計画期間（目標：10回/年）			
	H18-22	H23	H24	H25
	7回/年	9回	18回	11回
	—	—	—	—

定義：ワークショップ、アンケート、出前講座等の開催回数



パネル展でのアンケート調査



出前講座